

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 7 回新相模原市観光振興計画推進会議		
事務局 (担当課)	経済部商業観光課 電話042-769-8236 (直通)		
開催日時	平成24年7月5日(木) 午前10時～11時50分		
開催場所	相模原市役所 第2別館3階 第3委員会室		
出席者	委員	8人	
	その他	0人	
	事務局	12人(商業観光課長、他11人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 議題 議題 1 第 6 回新相模原市観光振興計画推進会議の結果について 議題 2 新相模原市観光振興計画の推進について (1) 平成 23 年度入込観光客数及び観光客消費額の状況について (2) 平成 23 年度の主な事業実績について (3) 平成 24 年度の事業・取組みについて (4) エリア別計画及び基本的・重点施策の進捗状況について 3 その他 4 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 開会

内藤会長あいさつ

2 議題

議題 1 第 6 回新相模原市観光振興計画推進会議の結果について

議題 2 新相模原市観光振興計画の推進について

- (1) 平成 23 年度入込観光客数及び観光客消費額の状況について
- (2) 平成 23 年度の主な事業実績について
- (3) 平成 24 年度の事業・取組みについて
- (4) エリア別計画及び基本的・重点施策の進捗状況について

議題 1 及び 2 について、第 7 回新相模原市観光振興計画推進会議資料により事務局から一括して説明を行った。また、鈴木委員（神奈川県観光課）及び相模原市の各観光主管課長から観光振興の取組みについて、次のとおり補足説明等がなされた。

《補足説明等》

『神奈川県の観光振興の取組みについて』鈴木委員（神奈川県観光課）

○資料の中で相模原市の調査結果が報告された入込観光客数等の調査に因み、神奈川県全体の状況をここで報告する。神奈川県においても、東日本大震災に起因する各種イベント等の中止により、平成 23 年の観光入込数は、速報で 1 億 5,170 万人で、平成 22 年に比べ 12.6%の減少となる。数字上では、夏から秋にかけて回復しているように見える。

神奈川県内では、横浜・川崎、三浦半島、湘南、箱根・湯河原、丹沢・大山、相模湖・相模川流域の 6 地域に分けて取りまとめている。数字だけでは単純に比較できない状況であるが、相模原市が属する相模湖・相模川流域においては前年比で 24.7%減であり、6 地域の中では最も減少率が高い状況である。因みに最も少なかったのは丹沢・大山地域で 2.8%減である。相模川流域のうち綾瀬市が前年比 70%の減少となっており、それに引っ張られていることの影響もある。秋から年明けにかけてだいぶ回復している傾向にある。

○今年改定となった神奈川県総合計画の概要版に掲載のとおり、計画の基本となる 6 つの柱の一つとして「人を引きつける魅力ある地域づくり」が掲げられている。各柱に基づく施策として、プロジェクト 16・17 が観光に関わるものとなっている。

プロジェクト16「地域資源を活用したにぎわい拠点づくり」については、新たな観光の核づくりとして、横浜・鎌倉・箱根に次ぐ第4の観光の核となる場所を県内に創っていこうというもので、現在、地域からの立候補を募っているところである。またプロジェクト17「行ってみたい神奈川の魅力づくり」としては、観光客の誘客促進、観光まちづくり人材の育成などを引き続き実施する。今年度の取組としては、地域の活力の源である商店街を活用して地域の魅力づくりを進めていくために、横浜商科大学への委託を通じた人材育成研修の開催を予定している。また、プロジェクト20『水のさと かながわ』づくり」としては、水に親しんでもらう、大切さを知ってもらうことを目的に、水のある観光地を発掘し、ツアーを組んでいく、といった取組を進めていく予定である。その一環として、今週、神奈川県・水の観光ホームページを開設したところなので、水に関連するツアーや観光地について情報があれば、このページを活用して公開していただきたい。

『相模原市の取組み』相模原市商業観光課

- （仮称）さがみはらアンテナショップについては、相模大野駅西側地区の再開発ビル北棟の2階に30坪の敷地面積で開業する。設置の目的としては、本市が誇る地域の「商品・情報」の発信等により多くの人に知ってもらうとともに、本市への集客の向上、観光誘客、消費の拡大を通して本市の産業の振興、交流人口の拡大等を図ることである。また、ショップにおいて販売する特産品、土産品等については、相模原産のものが中心だが、銀河連邦共和国の構成市町村で生産されたものも取り扱うこととなる。また、同ショップについては、7月1日より、その名称を募集している。
- アンテナショップの運営については、相模原市観光協会が担うこととなる。現在、同協会は、法人格を有していない状況であるが、このアンテナショップを担うとともに、今年度で設立50周年を迎える、また、政令指定都市の観光協会としての存在意義が高まってきているという現状を捉え、アンテナショップの開設次期である来年3月に合わせて法人格を取得する準備を進めている。
- 「観光まちづくり研修」は、日本レストランエンタプライズアドバイザーの齋藤泉さんを講師に招き、開催される。現役カリスマ新幹線アテンダントとして名を馳せた人気講師となるので、多くの方に参加していただきたいと考える。
- 政令指定都市移行の記念イベントとして開始したスイーツフェスティバルは、今回で3回目を数える。相模原市としては、このイベントを通じて市の観光情報を発信するとともに、市としてのオリジナルの特産品が生まれることを願っている。
- 相模原商工会議所が中心となり、相模女子大学、相模原市と連携して開発した、相模原市オリジナルの天然水「さがみの潤水」について、現在、販促を進めている。

『城山地域の取組み』 相模原市城山経済観光課

- 新相模原市観光振興計画に定めるエリア別計画の一環として、大島・向原・小倉・葉山島地域で観光振興計画を策定しており、その取組として、相模川花と昔めぐりマップの作成、葉山島お米づくり体験事業や、小倉地区にある十兵衛山をルートに盛り込んだハイキング事業「十兵衛山ちょい旅ツアー」を開催したところである。取り分け、6月3日に開催のお米づくり体験・第1回目の田植え体験には32組・112名の参加者があった。また、第2回目である草取り体験の後には、葉山島地区内にある観光資源「そうせいの滝」までの散策ツアーを提案し、多くの参加をいただいた。

『津久井地域の取組み』 相模原市津久井経済観光課

- 新相模原市観光振興計画で示す道志川エリアを3つに分け、地域別観光振興計画が策定されているが、平成23年度は津久井中央地区についての地域別計画が策定された。道志川エリア自体が広大なため、3地域に分けての計画策定となった。計画策定に関わる地域住民には新たに越してきた方が多く、まず、地域の観光資源を把握してもらうことを重点に策定の支援を進めてきた。
- 津久井経済観光課にて平成22年度に策定した森林ビジョンについては、今年度の実行計画を策定する予定となっている。計画の内容として、森林を舞台とした体験事業についても盛り込む考えであるため、森林関係の計画ではあるが、観光協会会員に策定委員として関わってもらい、地域の観光資源を活用した事業を提案いただく考えである。

『相模湖地域の取組み』 相模原市相模湖経済観光課

- 平成24年度に相模湖地区として進めてきた観光振興の内容としては、大きく3つある。1つ目は、小原宿本陣を中心とした、少し格調が高い観光振興の推進。2つ目としては、平成23年度に相模湖駅を中心とした与瀬地区、相模湖湖畔における地域別観光振興計画を通じた観光振興。3つ目としては、プレジャーフォレストの集客力を活用した内郷地区における一体的な観光振興の実現である。プレジャーフォレストについては、今年の秋口には施設（アトラクション）整備の完了により集客力が向上するとともに、11月から4月までの期間に開催されるイルミリオンによる高い集客力も持ち合わせていることから、その集客を石老山という観光資源に結びつけ、より長く地域に滞在し、地域を知ってもらうことにより、また訪れてもらうことをねらいとする。現在、プレジャーフォレスト側にも連携の働きかけを図っているところである。

『藤野地域の取組み』相模原市藤野経済観光課

- 昨年度より開始した「ふじの自産自消を楽しむ会」は、遊休農地の再生や体験交流型の観光事業の展開を図れるとともに、市内外の方たちと交流ができる。こういったことによって地域の活性化を図ることができる重要な事業である。会員数についても、開始当初より徐々に増えている状況であるので、継続的に実施すべき事業であると考えている。
- 平成 23 年度の事業として報告のあった「自然体験交流プログラムの開発」は、地域の中心組織である藤野観光協会、藤野商工会、ふじの里山くらぶが構成員となる「ふじの交流の里協議会」が主体となり実施するものである。中でもクラブツーリズム遊覧ツアーは、旧相模湖町エリアと旧藤野町エリアを結ぶもので、合併によるメリットを活かした画期的な事業であると考えている。事業実施にあたり、藤野観光協会が相模湖観光協会と連携を図ることにより、従来、相模湖エリアで運行していた遊覧船を藤野エリアまでつなぐことができた、いわゆる点と点を線でつないだ事業となる。
- 今回の報告には無いが、平成 22 年度に実施した自然体験活動指導者養成研修により養成した指導者 30 名が、藤野地区で開催する全ての各種自然体験交流事業に関わってくれている。毎年、それぞれの事業を実施していく中で、次の事業にもつながっていることを実感している。
- エリア別計画振興管理台帳の陣馬・高尾山エリアの部分で掲載されているが、平成 24 年度中に陣馬山登山道口へのトイレ整備を行うこととなっている。これは、地元観光協会や訪れるハイカーからの要望を受けて、老朽化した汲み取り式トイレを整備するものである。陣馬山は年間 22 万人のハイカーを迎え、藤野地区に留まらない相模原市を代表する観光スポットであるため、観光客の利便性の向上とともに、相模原市のイメージアップにつながると考えている。

《主な意見等》

- 津久井地区の鳥屋に、日本の滝 100 選に選ばれている「早戸大滝(まぼろしの大滝)」があるが、その大滝に向かうまでの道路が整備されていない状況である。部分的には鳥屋財産区の造林も含まれており、津久井経済観光課にも相談しているが、神奈川県管理による部分が多い。導線にある川が荒れている、山蛭が多いなどの理由により、結果として観光客の減少につながる事となるため、この問題に対する県の取組を教えてもらいたい。
- 同じく鳥屋にある「松茸山」は、神奈川県指定公園とされているが、(旧)八丁の滝の付近にトイレが無い状況であるので、改善の検討が必要と考える。
- 前発言のとおり、早戸大滝は日本の滝 100 選に選ばれているため、本にも掲載があり、人気も高く、問い合わせが多い状況である。ただし、一般道から大滝に至るま

では2時間程度を要し、川を渡り、崖も越える必要がある。大滝のある山のうち、鳥屋猟区である部分は猟期間前に一定の道路整備がなされるが、丹沢大山国定公園に係る部分については遊歩道としての経路が整備されていないため、相模原市としても県に整備を要望している状況である。ただし、非常に長い経路であるとともに、周辺エリアには山蛭が多く生息するため、経路単独を整備することは困難であると考えている。

- 現在、水源の森事業の中で、水源地の山を整備しているが、この事業が進むことにより、経路が確保されてくるのではないかと考えている。
- 松茸山については、トイレも含めて全体を鳥屋財産区で管理しているが、キャンプ客にトイレがいたずらされるという現状があり、昨年の夏には燃やされるという事故もあった。今年、市においてトイレを補修したが、夜間に暴走族からいたずらされることを恐れ、入口にバリケードを置いている状況で、一般の利用が困難な状況にある。今後、財産区の会長と巡視しながら、利用できる状況を作っていく。

○平成 23 年度に実施した観光客実態調査における調査地点として、相模川の新磯河川敷があげられているが、芝ざくらまつり会場も含まれているのか。また、含まれているのであれば、非常に交通の便の良い場所と考えているため、調査対象の観光客がどの辺りから訪れているのかを確認したい。

○新磯の芝ざくらは 1.4k mに及び、日本一の長さとなっているが、除草を行っているのは 15 人程度の 70 歳過ぎのお年寄りであるため、今後、担い手不足に陥る状況である。今年の芝ざくらまつりの際、麻布大学の学生による芝ざくらを活用したアートづくりを提案したところ、芝ざくらまつりの実行委員長より了承されたという、おもしろい事例がある。相模原市には大学が多いため、その学生たちに除草とともに、アートづくりを担ってもらうことにより新たな観光資源が生まれることとなる。また、交通の便が非常に良いので、地産地消のおもしろいお店を出店させることにより、地域の活性化にもつながると考える。

- 新磯河川敷を調査した時期は 12 月であったため、芝ざくらの時期ではなかった。また、今回のご提案である、大学生との連携については、今後、協議を図っていく。

○説明の中で、新相模原市観光振興計画の策定から 5 年目を迎える今年度に中間見直しを図るとのことだが、中間報告書のような冊子が作られることになるのか。

- 今回の見直しについては、計画のコンセプトを変更するといった大幅なものではなく、状況の変化に応じた修正を図るもので、その内容を反映した計画書（案）作成し、11 月の推進会議にてお示しする中で、ご意見を伺いたいと考えている。

- 見直し後の計画が、エリア別計画進行管理台帳に記載の事業実施主体として、掲載されていない商工会や観光協会があるようだが、実態としては観光振興事業を担っているため、掲載されるようバランスをとっていただきたい。
- 管理台帳上、商工会や観光協会の表記が無いが、地域別観光振興計画推進協議会等の連携組織に含まれている状況がある。

- 観光振興において特産品、土産品といったものは大事な要素と考えるが、相模原市には土産品が無い、11月の会議には市の土産品、特産品に関するリストを資料として提示いただきたい。

- 観光については、1つの基礎というか基点が必要である。そういった意味で小原宿本陣の活性化として、その整備についても進めてもらいたい。
- 神奈川県が実施する水源環境税を財源とした補助金の交付決定については、税金の無駄遣いにならないよう、手続を慎重に進められたい。

- 公共交通機関としてのお願いであるが、観光施設自体が観光客に良い印象を与えることは必要だが、そこに着くまでに道路渋滞があったのでは、悪い心象を与えることとなる。道路整備等も含め、駐車場、トイレを利用しやすくするなど、各観光施設において、その環境づくりに努められたい。

- 第6回推進会議でも発言した内容だが、平成23年度に実施の観光客実態調査にて把握した不満足見については、クレーム、苦情ではなく、お客様からのシグナル（発信）として大切な情報として捉え、必要に応じて汲み取り、事業の参考にしていくべきである。
- 調査項目・来訪目的に関する回答で、「各所・旧跡の観光」「食事」「温泉」など、多くの選択肢が用意されている中で、「その他」としている回答が10%もある。この10%に関するコメントを把握したい。
- 現在、多くの人々が、相模原といえば「はやぶさ」を思い浮かべる状況である。このような状況を活かした誘客を図ることはできないか。
- かなり先の話になるが、リニアモーターカーの開通に対して先行して観光対策を考えていくのも良い。

- 今回の発言のうち、神奈川県として確認・回答すべきことについては、関係所属への確認等を通じて回答していく。
- 観光振興において、多くの観光客に来訪してもらい交流人口を増やしていくことは重要なことだが、日本全体の人口が減少していく中で、いかに観光の質を高めてい

くかが今後のポイントである。神奈川県としては、体験型の観光、学ぶ観光など多様なメニューを用意しながら観光全体の質を高めていきたい。

○地域における観光振興は、体験交流プログラム、あるいは案内ガイドによる事業展開等が根付いてきている。あわせて、商業、農林業との連携も強まっていることが伺える。今年度は新相模原市観光振興計画の見直しの時期となっているが、計画策定初期の目的は実現できていると感じ、評価できる状況であると考えている。

○観光マイスターについては、今年度より6名に増員されたが、各マイスターには専門分野において、おもてなしの心をもって、活動に取り組んでいただくとともに、活躍する場を増やせるよう努めていただきたい。

《意見等のまとめ》

- 本日の推進会議における委員からの意見などについてまとめると次のとおり。
- ・ 津久井地域・鳥屋の「早戸大滝」「松茸山」に関する道路等の整備に関する対応については、神奈川県で対応状況等を確認する。
- ・ 新磯河川敷の芝ざくらの管理等に関する市内大学等との連携については、地域活性化に寄与することから、研究・検討を行う。
- ・ 新相模原市観光振興計画の見直しに伴い、11月に開催の推進会議には具体的な見直し内容を説明する。
- ・ 相模原市の特産品、土産品として代表的なものがないことは課題と捉えられることから、11月の推進会議には具体的なリストを提示し、情報交換の一助としていただく。
- ・ 観光振興計画の進行管理台帳における事業等実施主体の表記については、観光振興活動を行っている団体を適正に掲載できるよう検討していく。
- ・ 観光の基盤として、相模湖の小原宿のような資源は非常に重要であるため、その活性化等、関係事業の推進は重要である。
- ・ 道路整備を含めた駐車場、トイレ等の施設周辺環境の整備が必要である。
- ・ 観光客実態調査において把握した観光客のシグナル、その他意見については貴重な情報と捉え、必要に応じて活用していくことが望ましい。
- ・ 「はやぶさ」を活かした誘客の展開、あるいはリニア中央新幹線の誘致を先取りした観光振興策の検討が有効である。
- ・ 体験型、交流型など様々な形での観光振興事業の展開が観光の質を高める。
- ・ 地域別観光振興計画を策定した市内6地域においては、その取組が定着しているとともに、商業、農林業の分野との連携も図られている。
- ・ 観光マイスターの取組については、マイスターの増員を図る中、おもてなしの心をもって活動を進められたい。

3 その他

事務局から、次回の推進会議は今年度の11月に開催する予定である旨を伝えた。

4 閉会

永井副会長あいさつ

新相模原市観光振興計画推進会議委員出欠席名簿

区 分	氏 名	所属団体等		備考	出欠席
		名称	役職等		
学識経験者 ・ 専 門 家	内藤 錦樹	桜美林大学	名誉教授	会長	出席
		観光振興アドバイザー			
市 民 ・ N P O	梅原 邦彦	湘南みらい実行委員会	副会長 兼企画部長		欠席
	星 和美	ふじの里山くらぶ	理事		出席
関 連 団 体	岡本 政広	相模原市観光協会 (豊国屋)	会員 (代表)		出席
	秋本 昭一	相模原市観光協会 (津久井観光協会)	副会長 (会長)		出席
	永井 宏一	津久井地域商工会連絡協議会 (相模湖商工会)	(理事)	副会長	出席
民間事業者	山田 新一	神奈川中央交通(株) 相模原営業所	所長		出席
	向田 淳	(株)JTB法人東京 法人営業町田支店	支店長		出席
行政関係者	鈴木真由美	神奈川県商工労働局 産業部観光課	副課長		出席